

会議結果報告書

1 議会の名称

令和4年度 光市自殺対策協議会

2 開催日時

令和4年8月18日(木) 15時00分から16時00分まで

3 開催場所

あいぱーく光 いきいきホール

4 出席人数

委員18名中12名出席、事務局10名出席

5 公開・非公開の別

公開

6 会議の議事録(主旨)

(1) 開会

(2) 会長あいさつ(省略)

(3) 委員自己紹介(省略)

(4) 副会長選出(省略)

(5) 議事

ア 議事1 光市自殺対策計画進捗及び令和3年度取り組み状況について

事務局から光市自殺対策計画に基づく進捗状況と令和3年度の取り組みについて資料1、資料2、資料3を用いて説明。

【質疑応答・委員意見】

(委員)

自殺の報道があると自殺が増える。一度自殺対策協議会に報道関係者を委員として迎えるとよいと思う。

イ 議事2 令和4年度健康増進課の取り組みについて

資料4、資料5、資料6、資料7、資料8を用いて、光市自殺対策計画に基づく令和4年度に実施予定の取り組みについて説明。

【質疑応答・委員意見】

(委員)

ゲートキーパー研修に関してはチラシが広報に入ったことはあるか？

ゲートキーパー研修は継続的な研修があるか。継続的な研修がないと、実際にゲートキーパーとなった人達の活動の評価が難しいのではないか。

(事務局)

継続的な研修というのができていない状況。そういった見直しも含めて検討していきたい。

(委員)

ゲートキーパーに対して、精神的なストレス軽減に関する研修はあるか。

(事務局)

研修の中では自身のストレスケアのチェックをしていただくような話を含めた研修を実施している。

(委員)

受講者に、研修で自身のメンタルケアを学べるということを伝えていくと、もっと受講者は増えると思う。

ウ 議事3 今後の取り組みについて

(委員より提案)

委員より、自殺対策講演会の開催についてご提案。

【質疑応答・委員意見】

(委員)

今ご提案があった件につきましては、起こってはいけないことだが、でもどこでも起こりうる、そういう事例なんだろうと思う。

ぜひ、本当に周りの人の体験をされてる方の話を直に聞くことによって、我々の危機意識を高めてそれから教育活動に対するエネルギーを高めていくといった1つの機会として考えた場合、非常に意味があるのではないかと考えている。

(委員)

こういった取り組みはすごくいいと思う。ただ、薬局の立場として考えると、自分の中で考えて、でもどうしても自殺してしまった方たちと私たちはどうしてもお会いすることができないので、こういった話はすごく聞いてみたい。ただ、私達薬局としても取り組みはこういったことがあったけれども、病院に行けた、病院で薬がもらえて、いろいろ先生とお話しして、手順を組めるような環境をどうしても作ってあげたいという気持ち。ただ、薬だけではやっぱりどうしてもつらい。それで、カウンセリングを受けたい。私が勤めているところにカウンセリングの先生がいないため、私もどうしていいのかすごくわからなくて、光のあいば一くに電話をした。こういったところがあることを教えていただいた。ただ、光市に住んでいらっしゃる方であれば、非常にそれで助かったが、その方が市外に住んでいる方だったので、今度は市外に電話をして、いろいろやったので光市だけではなく山口県内いろんなところが連携してやればよかった。そして私達はやっぱり患者様から死にたいという言葉は何度か聞いている。そのときには、死にたいという気持ちをそんなこと言わないでという気持ちにはなるが、受け止めることを非常に大事にしている。そのような方はとっても真面目な方が多いので、私たちは次に薬局に来てもらえるように約束をするということも大事にしている。

(委員)

今ご提案いただいた講演会の実施は大変素晴らしいと思う。これを聞ける人が

子供だけとか若い世代だけとかに限らず幅広い年代の方がこういったお話を聞けるとよいと思います。

今特にコロナ禍で、当たり前の喪失体験というのがあり、それは大人も子どもも同じでこの当たり前がなくなるということ、それは日常でもあり非日常でもありというところが、そういった話を聞くことで、子供たちとか若い世代が感じる視点とまたそれより上の大人が感じるものが、様々違うかなと思うので、幅広い年代の人が話をぜひ聞ける機会があるといいなと思う。ここ数年、子供の自殺の低年齢化というのはすごく問題になっていて、確かにそれも大きな問題ですが。実際に自殺されている方の多くというのは大人で60代50代40代あたりがすごく実際の人数としては多いので、そういった方達、そして、こういった方に関わる人たちがこういう話が聞けたらよいと思う。

(委員)

私は病院に勤務している。病院という立場になると、自殺し、運ばれてこられると助かるケースっていうのはなくって、残されたご家族へのフォローをどうしていくのかっていうことを考えながら、取り組んでいく。この講演に関して講師の方が実際に自分のお子さんを亡くされて、この方が一体どのような過程を経てこういう講演ができるようになったかっていうようなお話はとても貴重なお話だと思うし、その話を聞くことによって、同じ思いをされた方が同じ思いで乗り越えていけるよ

うな形になるとよいと思うので、こういう講演会っていうのはとても貴重でよいと思う。

(委員)

人権擁護委員の協議会では県全体で、死にたいとか、自殺をしたいという相談であれば、そういった問題に対処するようなマニュアルも利用しているが、今のところマニュアル完結するところではない。いろいろな相談を割と気楽に手紙に書いてくれる子供たちもいる。それとともに、協議会としては、幼小中で人権教室というのをやっている。そこで関わったのが、小学校の高学年の児童に対して行う時に、当該校の校長先生のご希望で、命の大切さ、少し内容を変えてお話しした。それはユニセフの資料によりますと、全世界では5秒に1人。子どもの命が失われる、自然災害もあり、紛争も入る。子供の感想を聞くと、驚いたという感想もあった。

そういった点で、命の大切さを子どもたちに指導したことがある。命の大切さといっても、今の若い人たちは自殺する理由を生きてても仕方がないと言うことが多いが、生きていたら何かいいことがあるというふうな、やはり社会にしていかないと子供たちが将来を見切ったような言い方をすることが一番問題ではないか。そういった感想を持っている。なお、講演に関しては、非常に意義あることだと思う。数年前に、私は親が自殺したという子と関わったことがあり、その子のフォローに非常に困った。子どもをなくされた方の話を実際に聞くことは、私たちの参考にな

るのではないかと思う。

(委員)

私はハローワークなので、職業相談や労働者の対面での話になるけども、失業されてハローワークの方にお仕事の相談や手続きに来所される場合、前の職場の事情でここにいろんなことを抱えて来所される方が結構いる。その方については、定期的に臨床心理士をお招きして予約制で相談をしているが、相談だけでは、次の就職には至らないケースがほとんど。そのため、職業相談の窓口ではその方に寄り添って親切また時間をかけ、相談を行っているという現状がある。最近ではコロナ禍の状況でオンライン化も進んだ。職業相談についても、オンラインの職業相談ができたりとか、求人もインターネットサービスで簡単に探せたり、いろんな方策を取って、人との関わりを密に出来るように取り組んでいる。だが、自殺というと、ハローワークの立場からすると難しい面もある。講演については、なかなか良い取り組み、こういった機会はあまりないので、ぜひ参加し、回数を重ね、幅広い方が受講されることで、人と人が優しい関わり方で接することで、自殺が減るとよいと思う。

(委員)

自分自身の自殺に対するスキルも上げていきたいという思いがあるので、ぜひこの講演に参加してみたい。ゲートキーパー指導者養成研修は、令和4年度について

はこの1度の開催の計画か。

(事務局)

今年度に関しては9月5日、1日のみとなっている。

(委員)

来年、引き続き計画をされる可能性は予定はあるか。

(事務局)

また検討させていただきたい。

(委員)

いろいろな研修とか、いろいろな講演会というのをやはり私自身もやっぱり高めていきたいと思うので、いろいろなケースがあればまたご案内をいただきたいと思っています。よろしく願いいたします。

(委員)

社会福祉協議会において、自殺の恐れなど遭遇する機会はありません。家族の病気であったり、そういった相談を受ける中で、なるべく相談員は寄り添うような支援に臨んでいる中で、基本的に相談員はそのように対応していると言いながら、どのように対応したらよいかというような不安を日々感じながら対応してるんじゃないかと思う。

そうした中で今回ご提案いただいた、講演会で実際に身内をなくされた方の話を

聞くこと、それを受け止めることで、相談員に限らず、幅広い対象の方に話を聞いていただくこと、対策協議会が開催するということですのでごく意味のある事。いろいろな形で研修会、ゲートキーパー指導者研修会があるし、いろいろな形で市民が自殺と向き合える場所を、機会を増やしていくことで、計画の達成、自殺の予防を地域で支えていくということに繋がっていくと思う。福祉分野の関係の職員のそういった声が多い。ぜひ、参加できればと思うので開催をお願いします。

(委員)

非常に重い課題だと思う。もう私達は、クラブの平均年齢が80歳になっている。皆さんは今まで生きてきたのだから、いつ死んでもいいというのが、合言葉になっているが、今日の議題を聞き、私達が責任をもって、若い人たちを見ていかないといけないと感じた。

若い人たちは生活しにくい時代だなどは思う。特にこのコロナ禍で、しっかり私達が見てあげないといけないかなということを感じた。しっかり皆さんと、協議してやっていきたいと思しますのでこれからもよろしく願いいたします

(委員)

自殺対策講演会の開催は、非常によい取り組みではないかと思っている。警察が自殺に関わる業務といえば自殺で亡くなられた方の対応であったり、自殺をまさに今、企図されたという方の対応や自殺をほのめかして行方不明になった方の捜索活

動であったり保護ということを何件か対応している。

そういった意味で自殺対策講演会を開催し、市民の方にそういった意識を高めると、より多くの命を救えるのではないかと思っている。

(委員)

救急隊としては、救急車の適正利用の観点からすると、現場滞在時間が長くなることも不搬送になることも避けたいが、できる限り相手の話を聞き、必要な支援につなげることを考えている。こうしたことからゲートキーパー研修や講演会を実行することは、救急患者に限らず、消防職員のPTSDに関しても大変有効と考えており、職員に受講させたいという思いはすごく持ち合わせている。

(事務局)

ご提案いただいた講演会については、委員の皆様とても前向きなご意見ということで承らせていただいた。

対象者を市民、もっと幅広い年代というご意見もいただいた。

事務局としても自死遺族の生の声を聞くというのは大変貴重な機会や体験になると考えている。最初の提案でいくろ、光市自殺対策協議会役員の皆さんが委員所属団体の皆様、また庁内ワーキンググループの職員ということだったが、もっと幅広く市民にもっと幅広い年代にということも今後考えていかなければならないと感じた。会場は、あいぱくのいきいきホールで100人以内の講演であれば、密とい

う部分でもクリアできるのではないかと考えると、まず委員の皆様を中心とした講演会を今年度自殺対策協議会が主催として本年度開催していただき、その後の取り組みを検討するというふうに考えている。本年度、このような形で講演会を開催するかは、この協議会の皆様でご審議をいただければと思う。もし今年度開催の方向という形になれば事務局で調整を図りたいと思っているが、開催時期や時間その他のご希望等があれば、お寄せください。

本年度の開催、また協議会員を中心とした対象者での内容についてご審議をいただければと思う。

(全員一致で承認)

【質疑応答・委員意見】

(委員)

こういった講演会は記録し、継続して見れるように検討しているか。

(事務局)

今から調整をする中で、講師の許可が得られるかも検討もしていきたい。

(委員)

たくさんの人に見てほしいというのがこちらの考え。以前実施した YouTube で

流す等、よりたくさんの方が長期間見れるような形を作ってほしい。

(6) 閉会